

総合海洋政策本部参与会議（第38回）議事概要

- ◆日時：平成30年2月1日（木）10時00分～12時10分
- ◆場所：中央合同庁舎4号館12階 1208特別会議室

- ◆議事概要（参与の発言は○、事務局又は各省の発言は●で示す。）

1. 開会

〔配布資料について事務局から確認があった。〕

2. 平成30年度海洋関連予算案等について

〔資料2について事務局から説明があった。以下、意見交換。〕

- 補正予算があるものの、平成30年度海洋関連予算案が昨年度と比べて減額している。減額は、国として海洋を重要視していないとの印象を受ける。

- H30年度海洋関連予算が第3期計画でどのような位置づけなのか。各省がこれまでと同じ立場で予算を出しているのが無駄があるように感じるが、その無駄を是正するよう参与会議の意見として総合海洋政策推進事務局を通じて司令塔である総合海洋政策本部に意見できるのか。
海洋状況把握（MDA）予算は平成30年度で2億円となっているが、現状では工程表からすると、遅れているのか計画通りか。宇宙との連携はどうなっているのか。
資料2のP5にある「海洋再生可能エネルギーの利用促進」の「促進」と、タイトル「1. 海洋資源の開発及び利用の推進」の「推進」で齟齬がある。

- 資料2のP15の三次元物理探査船の更新とは何か。

- 財政状況が厳しい中で、海洋政策の重要性を関係省庁が認識したうえで、がんばって予算を確保したと考えている。また、平成29年度補正で前倒ししているものもあり、平成30年度予算案と平成29年度補正予算案と合算すれば増額となる。第3期基本計画の工程管理によって、予算配分のメリハリをつけることが重要と考えている。

- 資料2のP15の三次元物理探査船の更新は、現行活動している三次元物理探査船「資源」の老朽化に伴う新船の導入を念頭に計上しているもの。平

成 32 年度を目途に本格的に探査できるように準備を進めていきたい。

- MDA の H30 年度予算は、H28 年の本部決定に従って海上保安庁が H29 年度に着手した「海洋状況表示システム」の設計に続き、同システムを構築するために計上したもの。MDA は予定どおり進んでいると認識。H28 年の本部決定で示した①海洋情報の収集、②共有、③国際協力の 3 本柱について今後 5 年間の取組を次期基本計画に盛り込むべく、関係省庁と調整している。
- 海洋関連予算を説明されてもあまり意味がない。この会議では予算が 4 月からスタートする次期基本計画の施策とどう関連しているのかを説明していただければと考える。
- ご指摘の点について、関係省庁と相談しながらどのように参与会議に示すことができるか検討していきたい。

3. 次期（第 3 期）海洋基本計画の検討状況について

[資料 3～6 について事務局から説明があった。意見交換は非公表。]

4. 閉会

以上